

法華院山伏弘藏坊の系譜

松岡実

開基	養順法印	文明二庚寅年開基	十五世	快典法印 豐州院
本坊	弘藏坊		十四世	延宝二甲四月二十日 勝光院ノ子
二世	沙順法印		十六世	宜快法印 豐修院
三世	前秀法印		十七世	享保十九己年三月二十六日 豐州院ノ子
四世	快秀法印		十八世	快豐法印 円明院
五世	宜快法印		十九世	宝曆二申九月九日 豐修院ノ子
六世	高宗法印		二十世	宜快法印 授良院
七世	栄鎮法印			宝曆五乙亥二月十二日 円明院ノ子
八世	栄寂法印			宜快法印 一國院
九世	泉僧法印			明和乙酉年九月十三日 新昌坊ノ子
十世	南口法印			宥慶法印 勝万院
	是マデ清僧ト伝フ			安永二癸巳十月十七日 律門院ノ子
十一世	二位法印			宥定法印 宝積院
	元和七年酉年二月九日彦山ヨリ入院初メテ			文化六己年十月二十一日
	妻帯成リ同八年九月相續 寛永二十癸未年			求菩提山 観喜院ノ子
	七月七日病死			権大僧都法印 豪快大徳靈
十二世	大城家法印 勝光院 豪尊			文政十一年八月二十三日 隠居名泉嶽軒
	寛文十一辛亥三月五日 二位坊ノ子			

脇坊

中奥東ノ坊

開基 豪僧 (清僧)

二世 鎮宥大和尚 (清僧)

三世 法華院覚中典慈達院 (清僧)

寛文五乙己十月十四日

四世 可院大能覚

元祿五壬申八月二十九日

五世 福寿院慶信

元祿七甲戌年八月十八日 可院ノ子

六世 賢全坊恵空

寛保三癸亥年正月二十三日

本坊十三代 豊州院ノ次男

七世 宝積院顕清開大徳

宝暦三癸酉年十一月五日

八世 長久院

宝積院ノ子

中奥西ノ坊

開基 起賢法印 清僧

二世 養僧法印

三世 長賢法印

四世 偉門法印 コレヨリ妻帯

五世 勝万院

六世 真教坊

天明三癸卯年二月十六日

七世 賢明坊

天明四甲辰十二月二十九日

八世 婦峰真教房

文化十二乙亥六月二十二日

九世 婦峰泰元房知道

文政六癸未十二月二十七日 同坊二男

中奥南ノ坊

開基 養権法印

二世 永鎮法印

三世 三河坊法印

四世 良膳院 勝光院弟

五世 大泉院光眼

元祿十一年九月二日

六世 未光院

宝暦八年七月十七日

七世 政寿院

寛政十年正月二十一日

八世 真光坊

文化十一年十二月十九日

中興 北ノ坊

開基 下野坊法印

二世 駿河坊

三世 永権坊

四世 当山仙養坊

元祿十一年四月二十四日

五世 帰元仙養坊

享保五年三月二十六日

六世 円光院宥品大徳

安永二癸巳十一月六日 仙養坊ノ子

七世 恵教坊

寛政十年八月十二日

八世 泉教坊

天保八年二月二十八日
恵教房ノ子 東ノ坊清典兄

追記

以上の系譜は弘藏家門外不出の過去帳（二十一世豪との作）に依つたものである。その十世までは伝説時代に属し、十一世二位法印が元和七年初めて彦山より入院し、十二世

豪尊に至つて領主中川公の尊崇を得て勢力を得た。豪尊は中興の祖とも称すべき人で、法華院に残る多くの伝説はこの人のものである。殊に山名久住山に対して九重山を称え肥後領内の信仰者とあつれきを起したが、巧妙な手段をもつて領界の拡張を図り中川公の信望を得た。またこの系譜をみると法華院は彦山、求菩提の系統に属していたことがわかる。法華院が文献的に整備されたのは二十世豪学の時である。大別して開山を養順、開基を二位、中興を豪尊、完成を豪学とみるのが至当であらう。

(別府市鉄輪うかり荘)